

令和元年度

訪問看護師及び  
多職種による  
訪問看護ステー  
ション現場研修

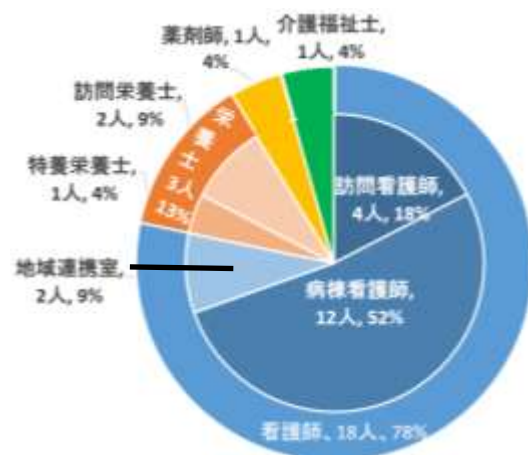


受入施設 33事業所  
受講者 23人

研修期間 令和元年7月1日（月）～12月20日（金）

## 【目的】

- ▶ 他事業所における訪問看護の実際や専門的技術を学ぶ事で、自己及び自施設の質の向上・機能強化を目指す。
- ▶ 多職種が訪問看護の実際を知る事で、生活を捉える視点や「その人らしくいきること」を支えるために必要なことを学び、多職種連携が要となる地域包括ケアシステムが円滑に進められる事を目指す。
- ▶ 「京あんしんネット」連携体制構築事業として、所属や立場を超えた医療・介護関係者のスムーズな多職種連携の実現を目指す。



【職種別受講者】

## 【研修を通して感じた学び、今後取り組み課題等】



研修事業所：亀岡病院訪問看護ステーション  
受講者：介護福祉士

利用者様や各家庭により、コミュニケーションの取り方を変えていたこと、時間内での処置、手際の良さを学びました。

多職種との連携、チーム内での情報共有も徹底されていて、今後自分の職場で再度見直していきたいと思います。

研修事業所：亀岡病院訪問看護ステーション  
受 講 者：栄養士

住み慣れた家で、一人ひとりの希望に沿った療養は、在宅であればこそという思いを強くしました。一方で訪問看護師は、一人で多くの医療処置を行い、体力的にも精神的にも本当に大変な仕事です。

気持ちのこもった言葉かけ・看護の実際・手技・手際の良さを学ぶ事ができ、今後の訪問栄養に生かしていきたいと思います。もっと沢山の症例から在宅医療の実際を学び、栄養士として出来る事を探していきたいと思います。



研修事業所：ステーションとくら  
受 講 者：病棟看護師

状態を把握しその時のベストを考え家族も含めて支援していくことの重要性和、どのような人生を歩まれてきたのかを理解し、介護力を確認しつつ、最期をどのように過ごしたいのかを把握するコミュニケーション技術が必要だと学びました。

今後取り組む課題としては、入院中の状況を誰が見ても解るような看護サマリーを作成し、在宅側の関係者に伝えていくことが必要と感じました。退院支援・退院調整を行う際には情報収集を十分に行い、自宅で本人や家族が管理できるかどうかを念頭に置いた支援を行いたいと思います。



## 【アンケートより】

“実際の訪問看護場面を見ることで、在宅生活のイメージが変わった” “信頼関係を築くためのコミュニケーション方法が学べた” “現場に行く事で訪問看護師が多職種に求めている事を知ることができた” “退院後の生活についてそれぞれの患者様の思いを叶える看護に繋げるためには何が必要か” など実際の現場に出向く事で新しい発見に繋がったこと。そして自身の学びを深めたり、今後ご自分の職場に戻った時、どのように連携することで在宅療養生活が円滑に行えるのかというところまで考えていただくきっかけとなり、本当に良かったです。多職種連携を行うためには相互理解が大切ですし、とても意味深い現場研修になっていると思います。

今後はより地域密着の学びを深めるためにも、現場研修できるステーションが増えていくといいですね。最後に、現場研修にご協力いただきました利用者様・ご家族様に深く感謝いたします。



取材：広報委員会  
京都府訪問看護ステーション協議会  
KYOTO VISITING NURSE STATION CONFERENCE